



代表
なかもら ゆきえ
中村 幸恵 さん

地域の大人と子どもたちが
つながる場所づくり

こども食堂「青空」は、子どもに無料で食事を提供する敦賀市の市民団体です。地域の大人が子どもたちとつながりを持ち、みんなが生き生きと過ごせる居場所づくりを目指して2015年9月に活動をスタートしました。代表を務める中村幸恵さんがこども食堂を始めたのは、自身の子育てがきっかけでした。

「子どもの『食』について独学を進めるうち、子どもの貧困や孤食の問題を知り、ショックを受けました。『幸せな県日本一』を掲げる福井県でも身近なところで困っている子どもや親がいる。なんとかできないかという思いから、他県の子ども食堂を視察に行っただけです」。

中村さんは視察を通じて、地域の大人と子どもが定期的に集まる事ができ

「食」を通じて、
子どもの居場所をつくる

る場の必要性を改めて実感。福井県初のこども食堂として「青空」の活動を開始しました。

誰でも参加できる
こども食堂を目指して

「青空」では、「子どもにも本物の味を伝えたい」という思いから、提供する食事は昆布やカツオでとったダシを使い、季節の食材を生かした献立に。子どもたちにも調理に参加してもらい、作った食事をみんなで一緒にいただきます。活動当初は貧困のイメージで捉えられることも多く、我が子の参加に抵抗感を持つ親もいたそうです。ですが、中村さんが目指すこども食堂は「誰でも参加できる場所」。それぞれの得意分野を活用し、地域の子どもや大人が



スタッフと一緒に食事づくりをお手伝いする子どもたち



抱える問題の対応につなげていきたいと考えています。その一環として、子どもの勉強をサポートする「宿題しよう会」や、海水浴などの野外活動も実践。親以外の信頼できる大人と出会って自分の存在を認められたと感じたり、年下の子の面倒を見ることで自信が持てるようになったりと、食事だけでなく自身の「居場所」として訪れる子どもも多く、「子どもたちがニコニコした笑顔でやってくるのを見ると、嬉しいですね。不登校だけど、ここには来てくれる子もいます」と中村さんも活動に手応えを感じています。

「青空」の活動趣旨に共感したボランティアスタッフが善意で食材を提供する生産者、賛助者は徐々に増え、活動開始から6年、今では周辺地域から「うちの区でも開催してほしい」という声が上がるほど地域のニーズは高まっています。

新型コロナの影響で負担が増した子育て家庭を応援

「青空」は、敦賀市西公民館で毎月2回開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月より従来通りの活動は一時休止に。新たな形を模索し、4月21日には、市内飲



神楽広場にてお弁当をドライブスルー形式で配布し、いつもの利用者とも久しぶりの再会を果たせました

また、子育て家庭の応援プロジェクトとして、「フードドライブ&フードパントリー」も実施しました。未利用の食品を募集し、子育て家庭に配布する取り組みで、小中学校の臨時休校で負担が増した子育て家庭の手助けを図っています。この活動には敦賀市も後援。官民一体となった助け合いの輪が広がっています。

「これまで困り事を人に相談しにくいと思っていた人たちにも、コロナの影響でみんなが困難に直面し、言いやすい雰囲気生まれた気がします。子どもだけでなく親御さんともつながって、民間団体としてできることを続けていけたらと思っています」。

●この記事に関するお問い合わせ

こども食堂「青空」(代表/中村氏)
TEL 080(5857)5524